

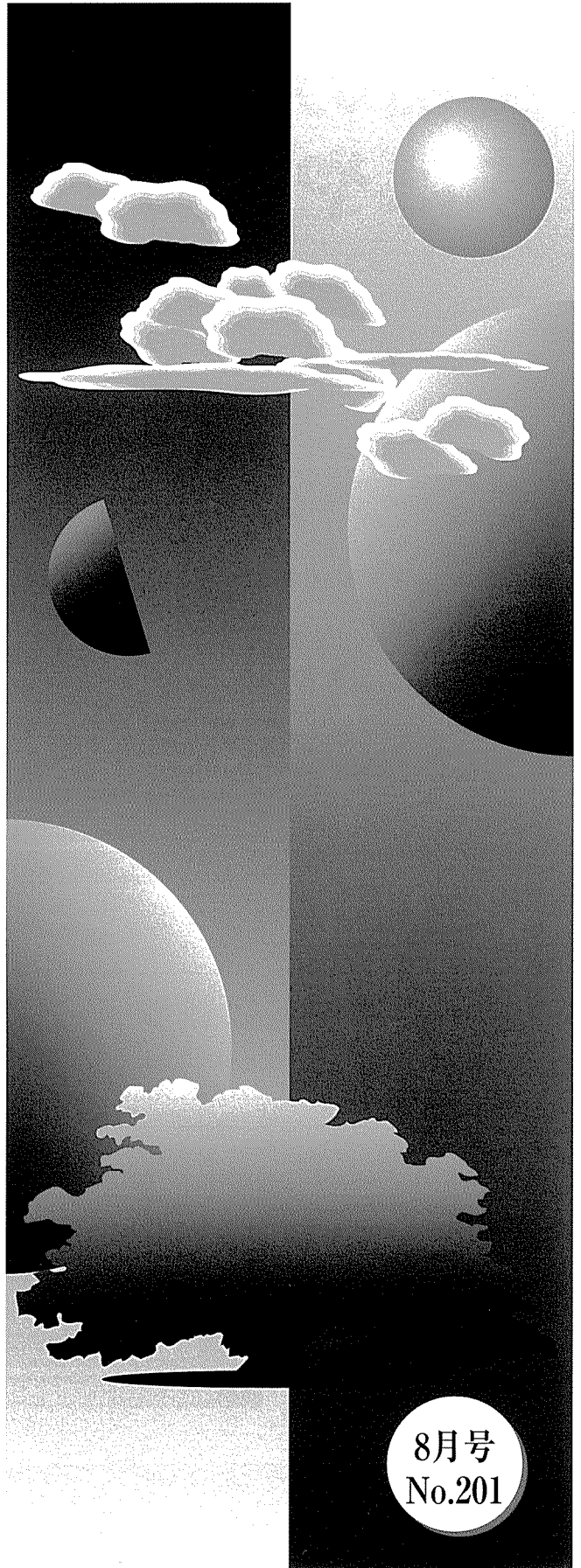
月刊

建材

ナビ

特集・店舗・大型商業複合施設のファサード
・ エントランスの高意匠化・高機能化
をすすめるアルミフロント市場

特集・大型物流倉庫・商業施設向けを軸に堅調
な重量シャッター／消費増税の反動で
苦戦する軽量シャッター市場



8月号
No.201

【環境・健康建材コーナー】

LIXIL

「LIXIL リフォームフェア 2015」、コントラクター、流通店、LIXIL 協働で潜在需要の顕在化をめざす「リフォームしたくなる仕掛け」の展示

LIXIL（藤森義明社長）は7月25日26日の両日、名古屋・ポートメッセなごや交流センターで「LIXIL リフォームフェア 2015 中部」を開催した。4月の北海道、5月の関西、東北につづき「LIXIL リフォームフェア 2015」を締めくくると、来場者は4会場で1万組を超えた。



太田中部支社長

今年の「リフォームフェア」は、「コントラクター様、流通店様、LIXIL が三位一体となりリフォーム需要を喚起する、潜在需要を顕在化することを目的に協働で実施している。これまでの展示会と違って、需要がなければ需要を創るような展示会」（太田博明常務執行役員 LIXIL ジャパンカンパニー中部支社長）をめざしたもの。

展示会場では、エンドユーザーを対象にした「リフォームしたくなる仕掛け」をコンセプトに、ユーザーが実際のリフォームのイメージを実感できるように「before / after」の形の多数の展示が関心を集めた。

「1day リフォーム」では、リフォームドア「リシェントII」、防音・断熱内窓「インプラス」、カンタン外窓交換「リプレムIIカバーモジュール」、キャビネット付トイレ「リフォレ」を実演販売の形で紹介し、リフォーム意欲を刺激した。

そのほかにもユーザーの悩みを解消するリフォーム展示で会場を



埋めた。「エコで快適リフォーム」（断熱リフォーム工法ココエコ、オーニング彩風、スタイルシェード、内装壁エコカラット、太陽光発電ソーラーラック等）。安全・安心の「玄関リフォーム」、耐震など暮らしをまもる「構造・外壁リフォーム」。水まわりでは、清潔・安心「トイレリフォーム」。快適・安心「浴室・洗面リフォーム」。料理が楽しくなる「キッチンリフォーム」。エクステリアの「ペットと暮らしリフォーム」。

子どもの独立を機に夫婦二人暮らしに合わせた「ゆったり語らう」リフォーム。家族のつながりを重視し、広々としたワンルームのLDKにかえる「わいわい暮らし」リフォーム。3DKを2LDKに変更し暮らしをかえる「きままに楽しむ」マンションリフォーム。こうした様ざまなリフォーム需要にワンストップで対応できることがLIXIL リフォーム事業のつよみでもある。

キッズデザイン賞受賞——樹脂窓「エルスター X」、ハイブリッド窓「サーモス X」、「イタリア」リモコン電動、「採風ドアの開閉・ロック機構」

LIXIL は、第9回キッズデ

ザイン賞の子ども視点の安全安心デザイン・一般部門で、4商品がキッズデザイン賞を受賞した。

高性能樹脂窓「エルスター X」：世界トップクラスの断熱性能（熱貫流率 0.79W/m²・K）を実現。トリプルガラスを採用しながら複層ガラス並みの軽さを実現し、子どもでも楽に開け閉めできる。転落抑制のための換気ストッパー、操作しやすい把手を採用。

高性能ハイブリッド窓「サーモス X」：アルミと樹脂のハイブリッド構造で、従来の樹脂窓と同等以上の断熱性能（熱貫流率 1.05W/m²・K）を実現。「エルスター X」同様に結露を抑え、カビやダニの発生を予防し健康的な住生活に貢献する。子どもも開け閉めしやすい複層ガラス並みの軽さを実現。転落抑制のための小開口アームや指はさみ防止部品を採用。

住宅用シャッターシリーズ「イタリア」リモコン電動：窓を開けなくても、誰でも楽に操作でき、早朝や夜、子どもが寝ている間でも静かに開閉できる安全・安心を提供するリモコン電動窓シャッター。

「採風ドアの開閉・ロック機構」：採風ドアの窓部の上部・下部にある2つの錠がひとつの操作機構で子どもでも簡単に施錠・解錠できる機構。

「消費者教育教材資料表彰」で最優秀賞受賞

LIXIL が発行する小学校5・6年生向けの安全教育教材「安全教育授業プログラム～家の中の安全を考えよう～」が、公益財団法人消費者教育支援セン

ミルト出版会

〒182-0023 東京都調布市染地 3-1-87

ト-1-407号

☎042-484-4507

FAX 042-484-4509

発行人 堤 祥行

年間講読料 30,000円（送料・税込）

建材 navi 8月号 -No.201 目次

特集 店舗・大型商業複合施設のファサード・エントランスの高意匠化・高機能化をすすめるアルミフロント市場 6

特集 大型物流倉庫・商業施設向けを軸に堅調な重量シャッター／消費増税の反動で苦戦する軽量シャッター市場 12

【環境・健康建材コーナー】 3

【新製品・新技術情報／業界の動き】 18

© Miruto Shuppankai Ltd.2015 無断転載・コピーを禁ず

ナブコシステムは時代の変化や要求に応じた、製品とサービスの質的向上を目指します。



BUTZBACH社製 パーテーションドア



BUTZBACH社製 ノボスプリント



BUTZBACH社製 スタッキングドア

NABCO ナブコシステム株式会社 <http://www.nabcosystem.co.jp/>

ター主催の「平成26年度消費者教育教材資料表彰」で、最優秀賞を受賞した。

今回、映像による問題提起を行ない、児童が解決方法を考え、映像で解説を行なうという構成、コンパクトにまとまり、モデル指導案やワークシートが学校ですぐに活用できる点などが評価されたもの。

YKK AP

キッズデザイン賞3商品受賞：
戸建住宅用窓「APW」オペレーターハンドル／「ドアリモアウトセット玄関引戸」／「EXIMA31」引違い窓

YKK AP(堀秀充社長)は、第9回キッズデザイン賞の子ども視点の安全安心デザイン・一般部門で、3商品がキッズデザイン賞を受賞した。

戸建住宅用窓「APW」オペレーターハンドル：たてすべり出し窓などの開閉時における子供の安全性や脱落防止に配慮した「回転操作によるハンドル」。樹脂窓では業界初の設定。

「ドアリモアウトセット玄関引戸」(れん樹RHアウトセット)：子育て世代や高齢者に対応した「既設の玄関ドアを引戸に取り替える」商品で、アウトセット式カバー工法として業界初の玄関リフォーム商品。

「EXIMA31」引違い窓(3枚建・6枚建)：集合住宅をはじめ教育施設や医療・福祉施設など、多くの人びとが利用する場所に対応する大開口引違い窓。従来の2枚建・4枚建に比べて大きな有効開口を確保できることや、幼児・高齢者のつまずき防止、

車椅子利用者には配慮した下枠フラットレール構造を採用している。

日本自動ドア

「お知らせ機能付きチャイルドロック」で第1回以来9年連続キッズデザイン賞を受賞

日本自動ドア(吉原二郎社長)は、「お知らせ機能付きチャイルドロック」で、第1回以来9年連続キッズデザイン賞を受賞した。

「お知らせ機能付きチャイルドロック」は、手動引戸および自動ドア装置にロック機構を組み込むことにより通行制限を可能とするもの。ドアが閉まると自動でロックが掛かり開かなくなり、「子どもが勝手に外へ出てしまう」などの問題を解決する。

また、従来のチャイルドロックシステムを改良し、子どもがドア通過時に音声やアラームなどによるお知らせ機能を追加した。さらに、ロック施錠時に無理にドアをこじ開けた場合やドアが閉まっていなかったといった異常動作時には警報専用信号を発報するので、セキュリティ面でも効果がある。

三協アルミ

「未来のとびらコンテスト2015」を7月募集開始、昨年の小学生版に新たに大学生版追加

三協立山株式会社・三協アルミ社(蒲原彰三社長)は、「未来のとびらコンテスト2015」を7月1日スタートした。昨年に引き続き全国の小学生(1~3年生の部・4~6年生の部)を対象にした「小学生版」と、全国の専門学校、短大、大学、大学院で建築、

デザインなどを学ぶ学生で現在在学中の個人またはグループ(3名まで)を対象にした「大学生版」の第1回学生デザインコンペを同時開催する。

「小学生版」は、子供たちの考える「未来のとびら」「ドア」「窓」「門扉」を募集する。応募締め切りは8月31日。

「大学生版」は、「ずっといたくなる家」「ずっといたくなる図書館」をテーマに、人々の居場所について、これからの時代や社会をイメージした瑞々しく斬新なアイデアを募集する。応募締め切りは9月30日。どちらも応募詳細は三協アルミHP。

三和タジマ

「文化財保存・復元技術展」に出展、業界随一の加工技術を披露



三和タジマ(来栖幹夫社長)は7月22日~24日まで東京ビックサイトで開催された、日本の文化財を守り伝える製品・技術・サービスに関する専門展示会「文化財保存・復元技術展」に出展し、実物展示・実演を行なった。

実物展示では、創業以来97年にわたり数々の実績を積みあげているステンレスをはじめアルミ、ブロンズ、真鍮などの金属加工技術を元にした国指定重要文化財となった近代建築の金属製品修復の実物展示(扉金

物、面格子等)、過去におこなった復元・修復の総合提案フロア展示、また銅合金、ステンレス、アルミ等金属材料の製法・仕上げサンプル展示、さらに銅合金表面処理の実演をおこなった。

平面的なデザインを3次元デザインに転換しおこなった金属製品修復の実物展示は、永きにわたり金属製品加工に携わり、業界全体のレベルアップに貢献してきた、三和タジマの技術力を目の当たりにできる絶好の機会となった。

不二サッシ

施工が難しい場所にも簡単に取り付けられるエコ商品「エコ引違い雨戸スピーディ」発売

不二サッシ(土屋英久社長)は、環境配慮商品「エコシリーズ」に、施工が難しい場所にも簡単に取り付けられる「エコ引違い雨戸スピーディ」を追加、6月新発売した。

「エコ引違い雨戸スピーディ」は、これらの特長を活かしつつ、戸袋スペースの確保できない場所や、雨戸レールのないサッシなど幅広い開口部にも後から設置できる引違いタイプの網戸付きルーバー雨戸。

これまでの取り付けブラケットからアタッチアングルによる固定に変更したことで、取り付け時間を短縮し、外壁を傷めずに施工できることが特長。すっきりとした外観意匠やサッシ枠とのすき間を完全になくすことで防虫性、止水性を向上させている。

住軽日軽エンジニアリング

道路橋梁と構造物の業績悪化で売上高減少も2年連続で最高益を確保、エンジニアリング力を活かし北陸新幹線の駅整備事業を受注

住軽日軽エンジニアリング(佐久間勇三社長)は、平成26年度売上高131億4000万円(前期比4.5%減)、営業利益11億4000万円(同5.5%増)、経常利益11億4000万円(同5.3%増)、当期純利益7億2000万円(同9.5%増)と2年連続で最高益を確保した。

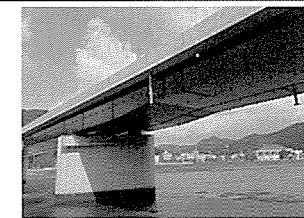
売上高の減少は、道路橋梁と構造物の業績悪化が主な要因。現在、事業セグメントの見直しをすすめているが、26年度の部門別販売割合は、道路・橋梁系40%、都市景観系26%、水門・溶接構造物系16%、建築系10%、上下水道・ソーラー架台系8%の比率。

今年度の計画は、売上高140億円(6.5%増)、営業利益9億円(21.3%減)、経常利益8億9000万円(21.6%減)、当期純利益5億8000万円(19.7%減)。熾烈な受注競争、アルミ地金や表面処理の価格動向など、利益面で不透明な状況がつづくとの見通し。

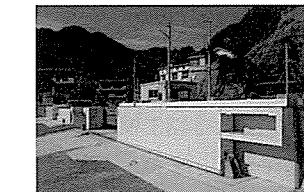
* *

新商品は、遮塩板(常設作業パネル)「キュウサ」。橋梁長寿命化対策開発製品でアルミ合金製常設型の点検足場。軽量で人力による施工が可能で、突起が少なくフラットな仕上がりが特長。桁間設置タイプと全面設置タイプ。愛媛県の宇和島道路岩松川橋に施工済み。

主な施工実績としては、都市



常設足場パネル「キュウサ」



「アルミ製陸間」

景観部門で、今年話題の北陸新幹線開通にともなう新駅(宇奈月黒部駅をのぞく)の整備事業を受注したほか、大泉学園駅北口デッキ(接着ハニカムパネル製シェルター・トップライト・SUS高欄)、JR長野駅善光寺口駅前広場(ろう付けハニカムパネル製シェルター)、JR飯山駅前広場(ろう付けハニカムパネル製シェルター)などの整備工事を施工した。

水門・構造物部門では、津波対策「アルミ製陸間」工事を、大塚製薬松茂工場(徳島県)、出光興産川崎工場、関西電力高浜原子力発電所などで昨年実施した。

そのほかにも、黒部ダム改修事業(天端アルミ高欄)、伊良部大橋(車両用防護柵アスレール)、鹿児島新港(ろう付けハニカムパネル製シェルター・ガラス高欄)などの施工実績を積みあげた。

店舗・大型商業複合施設のファサード・エントランスの高意匠化・高機能化をすすめるアルミフロント市場

2014年度非居住用着工床面積5261万2000㎡、前年比6.55%減少した。事務所618万7000㎡(1.5%増)、倉庫819万9000㎡(16.6%増)が増加したが、店舗714万7000㎡(14.5%減)、工場及び作業所771万4000㎡(4.1%減)、学校の校舎418万6000㎡(12.8%減)、病院・診療所337万2000㎡(18.9%減)、その他1580万4000㎡(11.25%減)と減少した。これらの中でも倉庫の大幅な増加が際立っている。

建物棟数では、事務所1万0547棟(前年比4棟増)、店舗9512棟(606棟減)、工場及び作業所7612棟(97棟増)、倉庫1万3844棟(455棟減)、学校の校舎3433棟(409棟減)、病院・診療所2242棟(510棟減)、その他3万8117棟(1738棟減)。倉庫は床面積の増加にかかわらず、建物数が減少しており、大型物流センターの新設が顕著であったことを示している。

最新の店舗ファサードづくりに対応するフロント設計・加工・施工力に優れたネットワークづくりが不可欠

アルミフロント市場は、三協立山、昭和フロント、不二サッシ、LIXIL、YKKAPの5社で形成されている。その取り組み方には、アルミフロントメーカーによって若干違いがある。アルミフロント市場は、パイオニア企業である昭和フロントの「ストアフロントコンクール」にみられるように、コンビニや飲食店などの店舗づくりのための部材提供からスタートした。

このフロント材を提供するメーカー、設計者、フロント部材の選定と製作をおこなう加工店、現場で組み上げていく施工店が一体となって店舗づくりを進めていく一連の流れがある。

このためにアルミフロント事業では、現場対応力をもった販工店のネットワークづくりが最重要テーマとされる。業界をリードするLIXILと昭和フロントは、1000店の販工店ネットワークを築き上げている。この販工店数の多寡が売上高を左右するといわれる。

一般的に大手サッシ各社は、オーダー対応に長けたビル建材分野からフロント分野に進出している

が、LIXILは専門企業の昭和フロントと同様に住宅建材分野からフロント販工店を育成することに力を注いできた。三協立山も同じように一般店舗を重視した展開をすすめてきた。

こうした動きは、店舗併用住宅のような小規模店舗でのフロント需要獲得を支えており、アルミフロント事業のスタンダードなスタイルとなった。ただ、最近は郊外型の大型店舗や大規模商業複合施設などへの対応がテーマのひとつになりつつある。YKKAPや不二サッシのように、ビル建材分野の一部としてフロント事業を展開するうごきもつまっている。

2014年度アルミフロント売上高は約440億円と前年並み実績を確保 今年度前年比5～10%の拡大計画

2014年度アルミフロント売上高は約440億円と前年並みと推定される。消費税の反動が見られた住宅分野に比べて、比較的順調に推移したようで、今年度も前年比5～10%の拡大が計画されている。

メーカー別にみていく。LIXILが約192億円・シェア43.6%と推定される。販売全体の70～80%を占める一般店舗向けと大型商業複合施設向けを主力に前年並みの実績を確保した。フロント市場においても、新設からストックの活用視点をおいた店舗づくりが本格化するとの見方で、エントランスの自動ドア化など、リフォーム商品の開発に精力的に取り組んでいる。

昭和フロントは約108億円・シェア24.6%と推定される。アルミフロントを含む店舗用建材トータルでは売上高140億円を確保した。今年度はトータル150億円の計画。一般店舗向け40%強を軸に大型商業複合施設を加えると販売全体の70%を超える。これら店舗の集客力アップをめざす新たなLEDサインシステム「エコレダ」は、フロント材の付加価値を高める商品として、今後の販売拡大が期待できる。

三協立山は約69億円・シェア15.7%と推定される。重点商品の「instax」のスリムな外観とシスマテックな部材構成を活かし、一般店舗向け

45%を主力に、大型商業複合施設20%、オフィス・病院などビル向け15%の大型スクリーン・カーテンウォールにも対応している。居住その他応用分野向けが20%と比較的おおいことも特徴。グループ企業・タテヤマアドバンスの商業施設事業と連携したトータルな店装事業の展開も強みといえる。

YKKAPは約42億円・シェア9.5%と推定される。用途別販売割合をみると、オフィス・病院・福祉施設等のビル向け40%と大型商業複合施設向け30%で販売全体の7割に達する。ビル建材事業の一翼としてフロント事業を展開していることがみてとれる。今後、パー材・部品販売専用の店舗用フロント商品「Fes」を活かした一般店舗分野への浸透が目玉される。

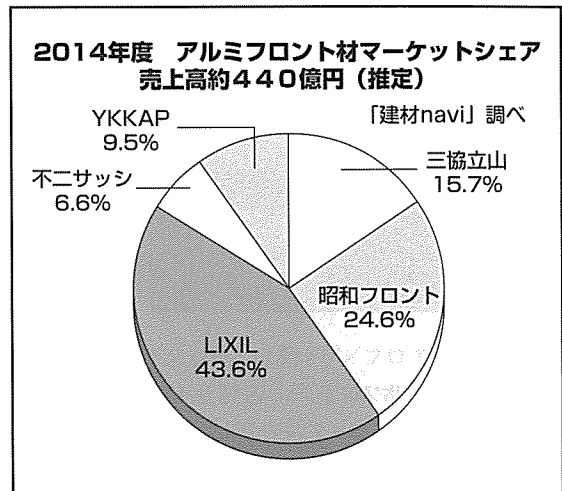
不二サッシは約29億円・シェア6.6%と推定される。用途別には、オフィス・病院・福祉施設等のビル向け35%、大型商業複合施設向け30%と、ビル用フロントを中心に展開する。アルミフロント事業は、最重点分野として取り組みを強化している。独自開発した面発光体LEDプレート「アルビーム」を搭載したカーテンウォール等オリジナル商品で新たな需要の獲得に取り組んでいる。

一般店舗向けと大型商業複合施設向けを合わせた売上高70%超える 断熱フロントの本格的な拡大予想

アルミフロント市場は、一般店舗向けと大型商業複合施設向けをあわせて売上高の7割以上を占めている。依然として一般店舗向けが主力マーケットとはいえ、最近の店舗の大型化にともないビル建材の要素が高まりつつある。もうひとつは住宅建材と同様に、LIXILが積極的に打ち出している店舗の改装需要への対応を強めることである。大掛かりなビル改装需要とは別に、小規模な店舗の改装需要の掘起しが必要になる。

商品的には、2020年の省エネ基準適合の義務化に備えて、断熱フロント・空気層12mm複層ガラス仕様の拡大が予想される。いまのところ断熱フロントは、おおいメーカーでも20%台にとどまっているが、法令化にともない飛躍的な拡大が予想されている。

アルミフロントのカラー化傾向は、ステン・グレー系色とシルバー色を合わせた2色が7割を超えてい



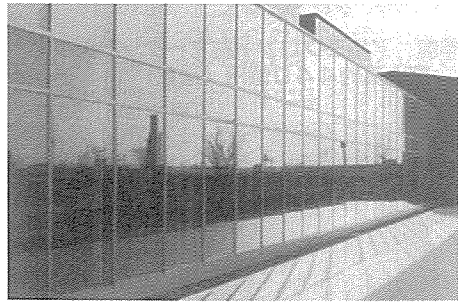
る。ステン・グレー系色がシルバー色を上回るメーカーが増えているのは、ビル建材と同様に全カラー同一価格に設定されていることも要因のひとつともわれる。ブロンズ、ブラック、ホワイトの3色はメーカーによって違いがある。ブロンズが20%を占めるメーカーもあれば、ブラックが20%を占めるメーカーもある。ただ、ホワイトはおおいメーカーでも10%強にとどまっている。

三協立山

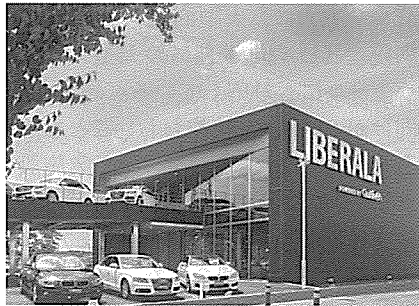
次世代フロント「インタックス」シリーズ、スクリーン・カーテンウォールのファサード建築にも対応

【主な商品群】 □重点商品 ―― ■次世代フロント「intax(インタックス)」シリーズ：スリムな外観とシスマテックな部材構成で、スクリーン・カーテンウォールにも対応していることが特長。フロント材だが、耐風圧性、水密性、気密性の3性能を明記して信頼性を高めている。◆「35シリーズ」(方立・無目の見付寸法を35mmに統一したスリムでシャープな意匠) / 「60シリーズ」(方立・無目の見付寸法を60mmに統一。ガラス溝幅20mm・35mmの単板ガラス仕様・複層ガラス仕様)。

□バリエーション・関連商品 ―― ◆「STフロント」 / 「防火フロント」(方立70mm・100mm、複層ガラス仕様。加工性を重視したFIX・ガラスブロック・引戸・オートドア・扉ドア・排煙窓等)。◆ビル用カーテンウォール「NL-R NAV」(建物の省エネ性を高める自然換気のできるカーテンウォール) / カー



三協立山：次世代フロント
フィンタックスシリーズ



昭和フロント：今年のグラン
プリ受賞作品「リベララ
つくばインターナショナル」

テンウォール「サフロ」／「店舗サイン・什器」等。

【現況】 三協立山グループは、三協アルミ社のフロント事業とタテヤマアドバンス社の商業施設事業で、総合的に店装建材事業を展開する。また、ビル用規格カーテンウォールでは、省エネ対応の「NL-R NAV」につづき、1月に異常気象に対応する水密性能1500Paの「NL-R」を発売するなど、ビル用フロントを性能面からサポートする。

アルミフロント材の販売傾向をみると、用途別には、コンビニ・飲食店などの一般店舗向け45%、大型商業施設向け20%、オフィス・学校・病院などのビル・公共施設向け15%、居住その他応用分野20%の販売比率。大型商業施設向けの比率が高まっている。

最近の節電・省エネに対応した複層ガラス仕様の販売比率は20%と、更なる拡大が予想される。また、防火対応商品の販売比率も30%と、ビルフロント分野への浸透ぶりを示す。また、フロント販工店ネットワークは400店。この内、カーテンウォール工事をこなす販工店は10%だが、販売全体に占める低層カーテンウォールは10%弱。

アルミフロントのカラー傾向は、シルバー40%、ステン・グレー系30%強、ブラック20%強、ホワイト10%弱と大きな変化はない。シルバーが若干減少している。

昭和フロント

フロント組込型LEDサイン「エコレダ」、屋内から外部へのサインとして意匠性を活かし新たなサイン需要開拓

【主な商品群】 □重点商品——◆フロント組込型LEDサイン「EcoLEDA(エコレダ)」：フロント枠内にLEDサイン専用枠を納められる次世代型サイ

ンシステム。そのメリットは、①ガラスカーテンウォールの一部にアクセントとして取り入れるなど、デザインの幅が広がる。②ビルイン物件にも既設サッシを傷つけず施工できる。③施工やビジュアル交換が室内側からできる。④屋内広告物として扱うことが可能。⑤フロント枠からはみ出さず通行を妨げることのないスマートな広告を演出できる。

バリエーションは、アクリルサインとガラスサインの両面発光タイプ・片面発光タイプ、ガラスサイン片面発光タイプのバックライト方式、直付工法・ノンビス工法など設置条件に合わせた全10タイプを用意。フレームカラー6色・RGBフルカラーLED全256色。

◆金属製熱遮断構造のセミフラットファサード「断熱Assort」シリーズ：2020年省エネ基準の義務化を見据えた断熱フロントシリーズ。FIX(100見込・150見込)、外倒し窓に丁番ドア、外開き窓を追加。最大高さ5900mmの大型フロントに対応。結露を抑え、省エネ効果を約25%アップする。

◆壁面緑化システム「アクアヴェール」：低炭素社会の実現に向けて「サカタのタネ」と共同開発。軽量なアルミフレームを採用したユニット本体と建築物と緑化を一体化した高い意匠性がセールスポイント。

□主力商品——◆セミフラットファサード「アソート」(フロント・スクリーン・カーテンウォールの各タイプ。44mm溝幅開口で空気層12mm複層ガラス仕様に対応。立体感のある表情を演出するデザインカバーも用意)。◆「ダブルスライド自動ドア」／安全対策製品「SF×PDシリーズ」／全開放型自動ドアシステム「スペースメイクF」／横引折りたたみ戸「オープンアトレS」／カーテンウォール「ローライズ」シリーズ／一般フロント・防火兼用「NL300・400」／内部専用フロント「NL200」などの豊富なバ

リエーション。

【現況】 アルミフロントのパイオニアメーカーとして、ビル・店舗ファサード・エントランスを形成する最新デザイン建築の流れに沿った商品開発を通じて店舗フロント業界をリードする。

最近では、大型店舗やビルイン型店舗の増加に対応し、集客力をアップする新たなサインシステムとして、フロント組込型LEDサイン「エコレダ」を開発し、その認知度アップ、実績づくりに力を注いでいる。

こうしたアルミフロント応用製品を含めた昨年度売上高は140億円を確保した。今年で46回目を迎えた業界恒例の「ストアフロントコンクール」に示されている店舗ファサード建築における発信力の強さを活かした提案営業を強化、今年度売上高150億円の計画。

アルミフロントの販売傾向をみると、用途別にはコンビニ・飲食店など一般店舗向け40%強、大型商業施設向け30%弱を主体に、オフィス・学校・病院などのビル・公共施設向けと居住用その他応用分野がそれぞれ15%前後を占める。

カラー化傾向は、シルバー系40%強、ステンカラー30%弱を主力に、ブラック15%弱、ホワイト10%強、ブロンズ系10%弱、その他オリジナル色僅少と大きな変化はない。

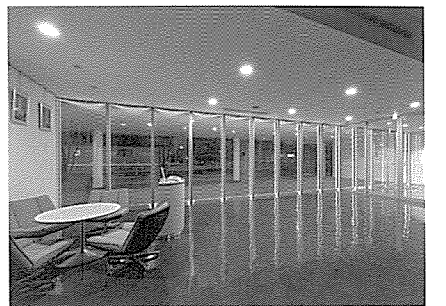
また、フロント販工店は約1000店と業界最強のネットワークを構築する。このうち約5%の販工店がカーテンウォール工事を扱っている。大型店舗やビルイン型店舗の増加に対応する低層カーテンウォール物件は販売全体の10%弱を占めた。

不二サッシ

アルミ一体型LED商品「アルビーム」搭載の「アルビームフロント」、新感覚の外装照明として提案営業

【主な商品群】 □新品——◆「ダブルスライド自動ドア／直付自動ドア」：「スタンダードフロント」／「フェイスングフロント」シリーズに追加。枠見込70・100mmに取り付け可能。「ダブルスライド自動ドア」は、ナブコのダブルスライド自動ドアに対応し、現行片引き自動ドアの1.35倍の有効開口幅を確保できる。「直付自動ドア」は、無目見付100・150mmに取り付けるシャープな意匠が特長。◆「硝子溝

不二：アルミ一体型LED商品「アルビーム」を搭載しカーテンウォールを光で演出する



幅36mm(A12対応)自動ドア／フロアヒンジドア]：「Comfortグリッド」(バックマリオンCW)・「ComfortIIグリッド」(バックマリオン中低層CW)・フェイスングフロントに追加。断熱性の高い中間空気層12mmの複層ガラスに対応。ガラス溝幅36mmで総厚26mmまでの複層ガラス使用ができる。

□重点商品——◆「ALBEAM-FRONT(アルビームフロント)」：アルミ一体型LED商品「アルビーム」を化粧無目や化粧方立に組み込んだLED搭載型カーテンウォール。「アルビーム」は、独自開発の薄型でコンパクトな面発光体プレートをアルミケースに装填した多機能LED商品。外装照明の常識を覆す最長30mのロングスパンを実現。2枚のアルビームを組み込んだ独自機構により、継ぎ目のない光のラインを演出する。ランドマークとなるような建物や商業施設、店舗などを引き立てるデザイン照明システム。

□ビル用フロントサッシ「Fフロント」——◆「フェイスングフロントSG」(ガラス溝を前面に配したフラットな意匠)／「フェイスングフロント・ニューサンフェイスF型」(耐風圧2400Pa・S-5等級)／「フェイスングフロントPG」(中間空気層12mm複層ガラス対応型、ガラス溝36mm)。◆「スタンダードフロント」(ガラス溝を方立中央に配したオーソドックなスタイル)。◆「Fフロント水防タイプ」(ゲリラ豪雨の浸水対策フロント)。

【現況】 新商品体系のビル用フロントサッシ「Fフロント」シリーズは、「フェイスングフロント」と「スタンダードフロント」を柱に構成する。省エネ・バリアフリーの最新ニーズに対応したフロントづくりをめざしている。

そのひとつが、アルミ一体型LED商品「アルビーム」を搭載し、カーテンウォールを光で演出する「ア

ルビームフロント」シリーズ。化粧無目や化粧方立をライン発光させる新しい外装照明として、フロントの新たな可能性を追求する新アイテム。また、省エネ対応では、中間空気層12mmの複層ガラス対応品のバリエーションを充実させた。

アルミフロントの販売傾向をみると、用途別には、オフィス・学校・病院などビル・公共施設向け35%、大型商業施設向け30%、一般店舗向け24%、居住・その他応用分野11%の比率。商業施設向けのショップフロントが主力を形成する。

また、アルミフロントの複層ガラス仕様は販売全体の10%にとどまるが、今後の増加が予想されている。フロント販工店ネットワークは約60店。この内、カーテンウォール工事をこなす販工店が20%を占めている。販売に占める低層カーテンウォール工事は5%にすぎないが、今後の大型商業施設の増加に対応できるネットワークを構築する。

アルミフロント材のカラー化傾向は、ステンカラー40%強、シルバー40%弱を主力に、ブラック10%強、ブロンズ、ホワイトが6%~3%の割合。

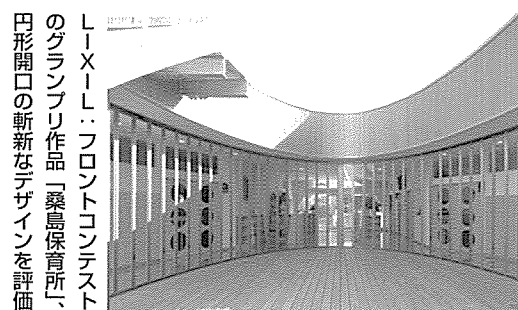
LIXIL

改装用オートドア「オートドアスリム100R」などリフォーム対応商品を中心に新たなフロント需要を創出

【主な商品群】□重点商品——◆改装用オートドア「オートドアスリム100R」の「ハツリレスレール」「省施工レール」:既設のサッシ枠やガラスを活かし、フロアヒンジドア(手動ドア)を自動ドアに変更する最短1日の簡単リフォームを実現した。「ハツリレスレール」は、2階など床を掘り起こせない箇所にも設置できるほか、床タイルなどの増し張りにも対応。「省施工レール」は、床に小さな溝を掘り、そこにレールを嵌め込みビスで固定するだけでフラットな仕上がりにできる。

◆「フロンテックTSシリーズ」:老健施設や保育所などを主な対象にしたキッズデザイン賞受賞商品で構成する「安全シリーズ」。◇「TSオートドア/TSセミオートドア」の新規物件用ガードスクリーン(戸袋)一体タイプ・既存物件用ガードスクリーン後付タイプ。◇「TSフロアヒンジドア/TS丁番ドア/TSピボットヒンジドア」の「ガードフラップ仕様」。

◆「複層ガラスシリーズ」:2020年省エネ基準適



合義務化に対応した中間空気層12mmの複層ガラス枠シリーズ。FIX・各種スライドドア(オートドア、セミオートドア、ハンガードア、引戸)・各種スイングピボットヒンジドア、丁番ドア)、排煙窓等をフルラインアップ。

□バリエーション——◆低層カーテンウォール・大型スクリーンフロント「ESシリーズ」/中低層カーテンウォール「テックフェイス」。◆「防火設備用フロント」、◆無目内蔵型ダブルスライドドア「フレアス」、◆ホールディングスクリーン・折れ戸「ラクタス」。◆ステンレスフロント「ビューフロントシリーズ」等。

【現況】アルミフロント業界のトップ企業として、ストアフロント「フロンテックユーピアル」シリーズを主力商品に展開する。

「LIXIL フロントコンテスト2014」の審査委員長・柘植喜治氏が述べた「新規建設から既存建築のリユース、コンバージョン、減築など新たなデザイン手法に価値を見出す時代になった」との認識からストックの活用、リフォーム需要への対応に重点を置いた商品バリエーションの充実をすすめている。

重点商品のひとつである改装用オートドア「オートドアスリム100R」も、既設のフロアヒンジドアを簡単に自動ドアへ改修できる商品。自動ドアの安全対策商品「ガードスクリーン(戸袋)」、スリムでシャープな意匠の「オートドア見付100mm」シリーズなど、エントランスの主役ともいえる自動ドア関連の新商品開発に力を注いでいる。

アルミフロントの販売傾向をみると、用途別には、コンビニ・飲食店などの一般店舗向けと大型商業複合施設向けを合わせると、販売全体の7~8割を占める。また、今後の拡大が予想されるアルミフロントの複層ガラス仕様は、販売全体の10%以下

にとどまっている。

フロント販工店ネットワークは、業界最多の1000店。店舗の大型化にともない低層カーテンウォールの販売比率は15%と増加傾向にあるが、カーテンウォール工事をこなすフロント販工店は10%以下とまだ少ない。

カラー化傾向は、ナチュラルシルバー40%、シャイングレー25%、ブロンズ、ブラック、ホワイトがそれぞれ10%ずつ、真空熱転写の木目柄「デマリオ」5%と変わらない。

YKK AP

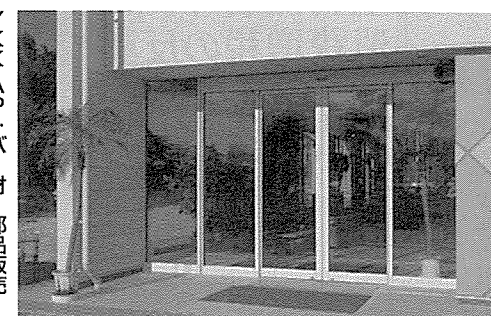
ビル用・店舗向けエントランス商品「EXIMA」軸に展開、店舗用「Fef」で短納期・小規模工事への対応強化

【主な商品群】□主力商品——◆ビル用・店舗用「EXIMA31e」「EXIMA51e」:エントランスまわりの開口部において、コーナー部の多彩な角度に対応可能な「自在方立」、多角Rに対応可能な方立170~180°コーナー対応「出隅・入隅」を新たに設定。

また、大型ハンガー引戸に自閉式タイプ、引戸・ハンガー引戸・フロアヒンジドア・自動ドアにキックプレート付下框を新たに設定した。特長は、方立・無目の見付寸法35mm・45mm・60mmに統一可能。ガラス溝位置は外部側でフラットなファサードを実現。中間空気層12mm複層ガラスに対応。ダブルスライド自動ドア、全開放型自動ドア、防護スクリーン付自動ドアなどを用意。◆「NECESS ENTRANCE&INTERIOR」:エントランスからインテリアパーテーションまでトータルに演出。

□重点商品——◆ビル用「SYSTEMA510e」(単板ガラス仕様、方立・無目の見付寸法36mm)/「SYSTEMA520e」(中間空気層12mm複層ガラス仕様、方立・無目の見付寸法55mm)。◆ハイフロント「YDF-100」(断熱材GRPによる形材断熱型フロント商品。ガラス溝38mm・空気層12mm複層ガラス対応)。◆店舗用「Fef(エフイーエフ)」(バー材・部品販売専用商品。短納期・小規模工事に柔軟に対応できるように加工性・組立性に配慮したシリーズ。方立見込70・100・150mm/方立・無目見付35・45・60mmに統一でき、フラットなファサードを実現。中間空気層12mm複層ガラスに対

YKK AP...バー材・部品販売
専門商品の店舗用「Fef」拡販



応。引戸クローザー搭載のハンガー引戸、ダブルスライド自動ドア、防護スクリーン付自動ドアなどを用意)。

【現況】ビル建材事業の一翼としてアルミフロント事業をすすめる。ビル用・店舗向けエントランス商品「EXIMA31e」「EXIMA51e」シリーズを主力商品に、大開口スクリーンやフラットなファサードのデザイン建築、断熱・防火・バリアフリーなどのあらゆるニーズに対応している。

同時に、短納期・小規模工事に柔軟に対応できるように加工性・組立性に配慮した店舗用「Fef」バー材・部品販売専用商品を投入して、一般店舗を中心にしたアルミフロントの需要獲得に取り組んでいる。

アルミフロントの販売傾向をみると、用途別には、オフィス・学校・病院等のビル・公共施設向けが40%を占める。大型商業複合施設向け30%、コンビニ・飲食店等の一般店舗向け25%、居住その他応用分野5%の比率。ビル用フロントを中心にした展開であるが、フロント販工店のネットワークは500店。カーテンウォール工事は扱っていない。

商品的には、節電・省エネ対応商品として、「EXIMA」「SYSTEMA」「Fef」「YDF-100」の全シリーズに、中間空気層12mm複層ガラス仕様を品揃えしている。また、隙間風の侵入を抑える「ウインシャットFH」をラインアップし、「EXIMA」で対応する。複層ガラス採用率は、豊富な商品構成もあって約25%に達している。

アルミフロントのカラー化傾向は、ステン・グレー系40%弱、シルバー30%強、ブロンズ系20%弱、ホワイトとブラック5%前後、その他僅少の比率。ステン・グレー系の増加が目立っている。

特集 2: **大型物流倉庫・商業施設向けを軸に堅調な重量シャッター
／消費増税の反動で苦戦する軽量シャッター市場**

**出荷数量 350 万㎡・前年比 7.6%減
と4年ぶりの減少、重量シャッター
4.8%減、軽量シャッターも 8.6%減**

日本シャッター・ドア協会のまとめによれば、2014 年度シャッター出荷数量は 350 万 1455 ㎡・前年比 7.6%減と 4 年ぶりの減少に見舞われた。アイテム別には、重量シャッター 109 万 0735 ㎡ (前年比 4.8%減)、軽量シャッター 212 万 0235 ㎡ (8.6%減)、グリルシャッター 4 万 8210 ㎡ (14.5%減)、OHD 24 万 2275 ㎡ (10.1%減) といずれも減少した。その中でも堅調な非居住分野に支えられた重量シャッターは 100 万㎡の台を確保した。

これらのシャッター関連商品をトータルに展開するメーカーは、三和シャッター工業、文化シャッター、東洋シャッターなどの大手に限られる。ただ、上位 2 社が実績面で抜きん出ており、圧倒的な影響力を発揮している。

昨年度の販売実績をみると、重量シャッターは大型物流センターと工場向け、店舗の大型化にともなう軽量シャッターからの代替需要に支えられて好調さを維持した。来年 6 月からスタートする防火シャッター・ドアの法定点検の義務化にともなうメンテナンスなどの新たな需要の発生も予想されている。

一方、軽量シャッターは、住宅用ガレージから工場・倉庫、商業施設、オフィスなど幅広い需要に対応しているが、新設住宅着工への依存度が比較高く、消費税増税にともなう反動の影響を受けたようだ。軽量シャッターは、現地生産・即納を基本に展開されており、住宅着工の影響を受けやすい市場といわれる。

スチール建材製品の主要なアイテムであるシャッター市場は、重量シャッターと軽量シャッターを 2 本柱に形成されている。最近の市場縮小に対応して、高付加価値商品づくりが業界共通のテーマにあげられている。

そうしたシャッター商品には、業界初のエコマークを取得した「高速シートシャッター」をはじめ、住宅用ガレージシャッターの電動アルミシャッターやオーバースライディングドア、横引折りたたみ戸、

さらに産業用の高速開閉シャッター・ドアなど、デザイン性と機能性を両立させた商品群が新たなシャッター需要を創造すると期待されている。

**三和シャッターの数量シェア・重量
50%弱・軽量約 52%、文化シャッ
ター同じく重量 34%、軽量約 37%**

国内シャッター市場は、全国規模の生産・販売ネットワークを構築する三和シャッター工業と文化シャッターの 2 社が牽引する。

2014 年度シャッター製品売上高は、三和シャッター工業が 586 億 7800 万円 (0.1% 増)。この内、軽量シャッター 267 億 6500 万円 (3.2% 減)、重量シャッター 319 億 130 万円 (3.1% 増)。

また、シャッター生産 5 拠点・営業 350 拠点のネットワークの下、数量ベースシェアは重量シャッター 50%弱、軽量シャッター約 52～53%と推定される。

用途別の販売傾向は、重量シャッターが工場 25%、店舗・商業施設 23%、倉庫・流通センター 15%、事務所 10%、住宅・学校・病院などその他 27%の比率。一方、軽量シャッターは事務所・工場・倉庫等 43%、ガレージ住居等 39%、店舗・商業施設 23%の比率。その電動化率は 32%とアップした。

文化シャッターは 480 億 6000 万円 (窓シャッター含む)。軽量シャッター 144 億 7300 万円、重量シャッター 123 億 6300 万円。また、シャッター生産 6 拠点・営業 289 拠点、数量ベースシェアは重量シャッター 34%、軽量シャッター約 37%と推定される。

用途別には、重量シャッターが工場 25%、店舗・商業施設 20%、倉庫・流通センター 17%、事務所・医療・福祉・学校・住宅等 38%の比率。軽量シャッターは、事務所・工場・倉庫等 40%、ガレージ住居等 30%強、店舗・商業施設 10%弱、オフィス・医療・福祉・学校などその他 20%弱の比率。電動化率は 33.4%に拡大した。

いずれにしても、両社の数量シェアをあわせると、重量シャッター約 80%、軽量シャッター約 90%におよぶ。

業界 3 番手の東洋シャッターが売上高 145 億 6400 万円、この内、軽量シャッター 24 億 5900

万円、重量シャッター 108 億 1700 万円の実績。

LIXIL 鈴木シャッター、日本シャッター製作所、小俣シャッター、金剛産業、大和シャッター、東鋼シャッター、東工シャッター、文明シャッターなどの専門メーカーが市場を形成する。

こうしたシャッター市場の中で、自社の得意技術を活かしターゲットを絞り込んで存在感をみせるメーカーもおおい。

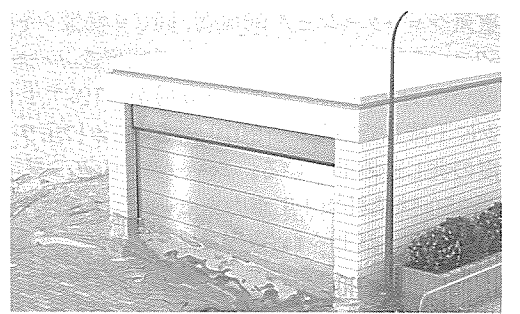
例えば、高速シートシャッター市場をリードする小松電機産業、店舗用スイングドアの実績を活かし高速シートシャッターを扱うユニフロー、オーバヘッドドアで知られる金剛産業、オールアルミ製シャッターを展開する四国化成工業、折りたたみ戸「イスターカーテン」の東工シャッター、ドイツの FRP パネルドアや超高速スパイラルドアを扱うナブコシステムなど、自社のオリジナル技術や販売ネットワークの強みを活かして、特定用途におけるシャッター需要に対応し、実績を積み上げている。

三和シャッター工業

防水商品「ウォーターガード・防水シャッター」9 台受注、住宅ガレージ向け商品のバリエーションを強化

【主な商品】 ■住宅用ガレージシャッター・ドア
—◆「エレガノ ST ワイド (スチールスラット・ワイドタイプ)」: フラットな形状のスラットを採用した意匠性に優れた電動式ガレージシャッター。スチール製スラットのカラーは、メタリック調のクールシルバー、メタリックステンカラー、ガンメタリックと、木目調のビンテージウォールナット、トートチェリーの全 5 色。夜間の開閉動作時に点灯する LED 照明を用意。開閉速度は約 6m / 分、最大開口幅 6300mm (木目調 5500mm)、CP 対応、耐風圧性能 750Pa。◆木製ガレージドア「ゼクラライト」: 天然木の無垢材を使用したオーバースライダータイプの住宅用ガレージドア。従来の「ゼクラ」の高級感をそのままに、パネル構造の見直しや流通性の高い材料の使用、パネルサイズ・カラーの規格化によって低価格化 (約 30%コストダウン) を実現。パネル材は米桐、カラーはウォールナットとバインの 2 色。パネル厚 35mm、開口高さ 2400mm・開口幅 1 台用 2400 / 2700mm、2 台用 4800 / 5400mm。開放速度 1 台用 10m / 分・2 台用 17m。

三和・防水商品「ウォーターガード・防水シャッター」受注本格化



■防水商品—◆「ウォーターガード・防水シャッター」: 通常時は管理用シャッターとして利用でき、浸水高さ 2m まで防水機能を有する業界初のパネル式防水シャッター。防水商品としては業界初の建材試験センターの技術評価認定を取得している。防水板や土のうのように設置の手間が不要で簡単にすばやく安全に浸水を防ぐことができるのが大きな特長。最近、東京・日本橋「コレド室町」の地下鉄連結部に 7 台、神戸で 2 台をそれぞれ受注し、徐々に実績をあげつつある。

■バリエーション—◆工場・倉庫から大型施設の出入口向けの「重量スライダー」汎用タイプ / 「高頻度用オーバースライダー」。◆ドイツ・エファフレックス社製の超高速シャッター「スパイラルシャッター」[ターボシャッター]「断熱スパイラルシャッター」。◆ビルトインガレージ向け軽量シャッター「静々動々」(ウレタン充填カラーアルミ製スラット採用の高速・静音設計)。◆透明 / 横引きシリーズの「クリアード」(送り込み方式のパネルタイプ) / シャッタータイプの「レイアード」[ハーフトーン]「クリアロール」等 / 横引きタイプの「ルミエール」等。

【現況】 三和グループは、「動く建材」のトップメーカーとして、国内市場を軸にアメリカ、EU、アジア地域にグローバル展開するスチール建材のリーディングカンパニー。

国内シャッター市場では、重量シャッター、軽量シャッター、オーバースライダー、高速シートシャッターなど、あらゆるシャッター関連のニーズに応えられるトータルな商品構成力を強みに展開する。さらに、「動く建材」メーカーにとって不可欠な責任施工・メンテナンスの強力な全国ネットワークを構築する。

2014 年度販売実績をみると、重量シャッター 319 億円 (前年比 3.1% 増)、軽量シャッター 267 億円 (3.2% 減)、OSD・その他 165 億円 (2.4% 増)。

重量シャッターシェア 50%弱、同じく軽量シャッター 52～53%と圧倒的な販売力で業界をリードする。重点分野の軽量シャッター市場が、1991年をピークに下降していたが、2010年をボトムによく回復の兆しをみせている。シャッター生産5拠点と全国350営業拠点+工事力をセールスポイントに提案営業・受注活動をいちだんと強めていく。

用途別には、重量シャッターが工場25%、店舗・商業施設23%、倉庫・流通センター15%、事務所10%、住宅・学校・病院その他27%の比率。今年度売上高353億円、前年比10.6%増の計画。

軽量シャッターは事務所・工場・倉庫等43%、ガレージ住居向け33%、店舗・商業施設向け24%の割合。軽量シャッターの高付加価値化を進める電動化率は32%と拡大傾向にある。一方、軽量シャッターの内、透明／横引きシリーズは販売実績6億円と停滞気味。タイプ別には、横引きタイプ6対昇降タイプ4の比率。今年度売上高269億円、前年比0.5%増の計画。

四国化成工業

施工が簡単な住宅車庫前シャッター「ユニットシャッター」、店舗に最適な「トランスパロール」軸に浸透を図る

【商品群】□バリエーション——◆店舗シャッター「トランスパロール」シリーズ：通常のシャッターよりもスラット面の広い「アルミスラットタイプ」、「ポリカーボネート板タイプ」、「強化ガラスタイプ」の3タイプ。独自の巻き取り方式でキズ防止と静音化を実現。スラット・枠のカラー4色。◆「ユニットシャッター」：車庫前に最適なアルミ製電動シャッター。施工が簡単なユニット式で、有効開口幅2500～5200mmまで100mmピッチの特注に対応。採光・通風、プライバシー保護など目的に応じた、アルミスラット、ポリカーボネート板、パンチング、パイプ仕様など全5タイプを用意。木目調カラーにも対応／「ユニットスライダ」。

◆「サインスライダ」：横引パネルシャッター。パネルピッチ800mm以下の「A8」（手動・電動。曲線1500R以上）、400mm以下の「A40型」（手動・電動。曲線1000R以上）、200mm以下の「A20型」（手動、屋内専用ノンレール。曲線500R以上）の3パネルサイズを用意。◆「アルミシャッター」：アルミ材を

四国化成・店舗向けの主力商品「トランスパロール強化ガラス仕様」



使用したオールアルミシャッター。アルミパイプシャッターを含め全5タイプ・カラー全4色。通風シャッター・採光シャッター・サインシャッターの特注に対応。

【現況】 軽量で錆びにくいアルミの特性を活かした各種のアルミシャッターを展開する。「ユニットシャッター」は、業界ではじめてエクステリア分野に投入した独立タイプの車庫前シャッター。横引パネルシャッター「サインスライダ」や独自の巻き取り方式の「トランスパロール」は、店舗・学校向けに展開するシースルーシャッターの代表格。

アルミ軽量シャッターは、ガレージ住居向け90%、店舗・商業施設向け、事務所・工場・倉庫等がそれぞれ5%ずつの販売比率。圧倒的に住居向けがおおく、その電動化率は90%に達する。

また、シースルータイプの販売割合は、巻き取り方式の「トランスパロール」、「ユニットシャッター」が90%、横引パネルタイプの「サインスライダ」10%の比率。用途別には、店舗・商業施設向け20%、病院・福祉施設向け10%、その他70%で、さまざまな施工実績を積みあげている。

東工シャッター

究極の「スリム框」、コンパクト設計、業界最小 R300 の曲線対応を実現したリニューアル「あけてんで」を拡販

【商品群】□空間創造建材・折りたたみドア「イスターカーテン」——◆屋外用「あけてんで」「あけてんで防火設備タイプ」：サッシと同等の性能をもつ高性能仕様。リニューアルで框のスリム化、パネル1枚の最大幅683.5mmに拡大し、最大幅10m×高さ3000mmの大開口に対応する採光・眺望に優れたデザインを実現した。◆屋内用「うららぎ」：新商品の体育館の折りたたみ式防球建具。ガラスとボールの接触や子どもの飛び出しを防止する効



東工シャッター・サッシ並の性能をもつ「イスターカーテン」

果。地産木材を使えることもセールスポイント。◆バリエーション——店舗・ビルの屋内間仕切り「スクエアスリム」「スリムタイプ」「スリムタイプ R300」／店舗・ビルの屋内および屋外間仕切り「ミドル・ワイドタイプ」／医療・介護施設向け間仕切り「らくなーぎ」／受付カウンターの間仕切り「だんねーぎ」／保育園・幼稚園の屋内間仕切り「ほっとスルー」／「パーテン」／店舗用屋内間仕切り「キャストゲート」など、間仕切り需要に対応する商品構成。

【現況】 空間創造建材「イスターカーテン」シリーズは、新発売以来10年を迎えた。サッシ並みの性能をもった屋外にも採用できる折りたたみドアとして、一般店舗をはじめ大型複合施設、医療・福祉施設、学校・文教施設などに新たな需要の掘りおこしをつづけている。

リニューアルした主力商品「あけてんで」は、魅せることを追求した究極の「スリム框」を採用、空間を有効に使えるシリーズ最小のたたみ幅を実現したコンパクト設計、さらにフレキシブルな曲線対応と業界最小のR300で店舗面積を最大限に活用する自由設計をセールスポイントにする。

用途別の販売傾向は、学校・公共施設向け35%、店舗・商業施設向け20%、医療・福祉施設向け20%、その他住宅・車庫・オフィス・工場など25%と、幅広い分野の屋内間仕切り需要に対応している。新商品の「うららぎ」のように地産木材の活用を目的にした木製建具など、アルミ以外の木製間仕切分野への浸透にも取り組んでいる。

ナブコシステム

高い採光性・断熱性・遮音性、独創的な意匠性のドイツ製ハイクオリティドア「ユーテック・ドア」シリーズ

【商品構成】□ナブコシステムのドイツ製ハイクオ

リティドア「EURTEC DOOR（ユーテック・ドア）」シリーズ——■「BUTZBACH（ブッツバッハ社）」（FRPドア、ハンガードア販売の欧州トップ企業。1990年の日本国内販売開始）：◆「スタッキングドア」（断熱FRPグラスファイバー製パネルドア。可視光線透過率最大78%の採光性能・断熱性能・遮音性能、さらには独創的な意匠性がセールスポイント。ドアパネルをコンパクトに上部コンソールに収納する上下スタック開閉方式。自動車ディーラーの整備工場、寒冷地の消防署、オフィスビル壁面などさまざまな採用例）／「高速スタッキングドHT40II」（開速度は従来のスタッキングドアの2倍以上。パネルの多様な収納方法を活かして原子力施設など特殊現場に対応）／「ヴァリオプラン」（断熱FRPグラスファイバーパネルを外壁素材として使用）。◆「パーテーションドア」（ガラス製パネルドア。上下スタッキングシステム採用。移動式中間方立を設置し最大11mの大開口に対応）。◆「超高速シートドア・ノボスプリント」（両引分開閉方式。最高速度毎秒5メートル）。

■「EFAFLEX（エファフレックス社）」（高速産業用ドア販売の欧州トップ企業）：◆「超高速スパイラルドア」（アルミ製高速パネルドア。独特の巻き取り形状のスパイラルレール構造を採用。高速開閉・高耐久性・高デザイン性が特長。年間開閉回数15万回以上を実現。マンション駐車場の出入口・セキュリティゲート・ドックヤードなど多彩な使用例）／「超高速ターボドア」（透明アクリル製高速パネルドア。最高速度毎秒3.0メートルの上下式超高速巻上開閉方式）／「断熱・超高速スパイラルドア」（断熱エファサームパネル高速スパイラルドア）／「超高速スパイラルドア・プレミアム」（断熱エファサームパネル高速スパイラルドア。年間開閉回数20万回以上を実現）。◆「高速ロールアップドア」（クリンルーム専用シートドアをはじめ各種のバリエーション）。

【現況】 自動ドアの販売・施工・メンテナンスのトップ企業として、高品質・高性能・デザイン性にすぐれたドイツ製ハイクオリティドアを日本国内市場に展開する。従来のシャッターにはない採光・断熱・遮音の諸性能と独創的な意匠性、高耐久性などを兼ね備え、従来のシャッターというよりもパネルドアとして建物の開口部、壁面に採用されている。

これらの商品群は、最高レベルの性能・機能・意



ナブコシステム：採光・断熱・意匠を兼ね備えた「スタッキングドア」

匠を提供し、開口部だけではなく、建物全体をグレードアップする。主力商品の「スタッキングドア」は、断熱FRPグラスファイバーパネルの採光性・断熱性を活用した節電・省エネ効果の高いエコドアとしても評価されている。自動車ディーラーの整備工場や格納庫、消防署など、建物内部を常に明るくしておく必要のある現場に採用が進められている。

また、「超高速スパイラルドア」は、世界特許の巻取り形状「スパンラル・レール構造」の採用による年間開閉回数15万回以上を実現した高性能・高耐久性能がセールスポイント。マンション駐車場出入口や気密性の求められるバックヤード、超高速開閉が必要な出荷口などに採用されている。

さらに、「超高速スパイラルドア」に、ナブコ無線認証システム「らくらくパス」を搭載し、マンション駐車場の出入口を管理する新しいゲートシステムとして提案、業界ではじめて採用された実績もある。単なる開口部商品ではなく、建物全体の管理システムに連動したセキュリティ機能を付加した商品としての展開も、ナブコシステムの「ユーテック・ドア」シリーズの大きな特長といえる。

一般的なシャッター・ドアよりもランニングコストで上まわる高耐久性・堅牢さに加えて、各種素材を採用したドアパネルの高いデザイン性をセールスポイントに自動ドア関連分野への浸透を図っている。

文化シャッター

フラットフェイスの「フラットピット」、電動アルミシャッター「御前様」などガレージシャッターの販売強化

【主な商品】□新商品——◆防火/防煙シャッター用安全装置「無線式危害防止装置・マジック

セーフ」：信号送信用コードのない無線式で、業界初のバッテリー交換が不要な自己発電装置内蔵の送信機を採用した。従来の有線式危害防止装置（コードリール式）に比べて、断線の危険性がなく、意匠性も向上したことが特長。

□ガレージシャッター——◆住宅用オーバースライディングドア「フラットピット」（1枚パネルのような美しいフラットなフェイスデザインが特長。巻き取り式電動シャッターの4倍の高速開閉、開閉音55dBの静音設計）。◆フラットガレージシャッター「ポルティエ」（フラットな新型鋼板製スラットを採用したガレージ専用シャッター。スタンダード3色・オーダーフィルムタイプのウッドテイスト7色・ストーンテイスト4色。最大開口幅6.3mの2台駐車用）。◆電動アルミシャッター「御前様」（発泡ウレタン充填アルミロール成形スラットを使用したガレージシャッターの主力商品。木目調スラット追加）。◆軽量アルミガレージシャッター「ポルティエ」（発泡ウレタン充填アルミロール成形スラットを使用した電動式・手動式。新型多光軸センサ採用。木目調スラット追加）。◆高速低振動グリルシャッター「大静快」（マンション駐車場出入口の上部の居住者に与える不快な振動を抑制する）。◆全面ガラスシャッター「フルグラス」（見せながら仕切るオリジナル性に優れたシャッター）など、高付加価値商品を軸に展開する。

□製造・保管・物流施設向けシャッター——◆冷凍・冷蔵物流施設向けのオーバースライディングドア「フラットチルド」「フラットクール」。◆搬入口・開口エリア向けの「重量オーバースライディングドア」/「オーバースライディングドア断熱仕様・高速高頻度仕様」/「ドッグシェルター（BSシェルター）」/重量オーバースライディングドア/「ポールレス防火/防煙シャッター」/「管理用重量シャッター」/軽量汎用シャッター「セヌ」など豊富なバリエーション。□透明パネルシャッター——◆「パネルック」/スチール製「パネテックス」/横引き「パネルーラ」などのバリエーション。

【現況】第三次中期経営計画の最終年度（2016年3月期）売上高1450億円、営業利益105億円、営業利益率7.2%をめざして、シャッター関連製品事業、建材関連製品事業、サービス事業、リフォーム事業などを展開するシャッター・ドア業界のリー



文化：住宅ガレージドアのイメージを一新した「フラットピット」

ディング企業の1社。

シャッター関連製品事業の昨年度売上高は480億6000万円(前期比0.3%増)。セグメント別には、重量シャッターは123億6300万円(5.9%増)、数量シェア34.0%と拡大。一方、軽量シャッターは144億7300万円(6.0%減)、数量シェア36.7%と同じく拡大している。重量シャッターは、工場や商業施設向けが好調に推移し増収。軽量シャッターは、消費税増税の影響とリフォーム需要の低調が

響き減収となった。今期計画は、重量シャッターが採算重視の受注活動、軽量シャッターが電動タイプを中心にした高付加価値商品の受注活動による増収を見込んでいる。

重量シャッターの用途別販売割合は、工場向け25%を軸に、店舗・商業施設向け20%、倉庫・流通センター向け17%、事務所向け5%、文教施設その他6%の比率。店舗・商業施設向けの伸びは、店舗の大型化にともなう軽量シャッターからの切り替え需要が増えたことが一因。

一方の軽量シャッターは、ガレージ住居向け50%弱、工場・倉庫40%弱を2本柱に、事務所・医療福祉文教施設と商業施設向けがそれぞれ10%弱の販売割合。ガレージシャッターは、デザイン性に優れたオーバースライディングドア「フラットピット」や電動アルミシャッター「御前様」などの高付加価値商品群の充実を進めている。軽量シャッターの電動化率も業界最高の36.7%と確実に伸ばしている。

閉じ忘れがないので、冷暖房のエネルギーを逃がさない。自動ドアは省エネに貢献しています。

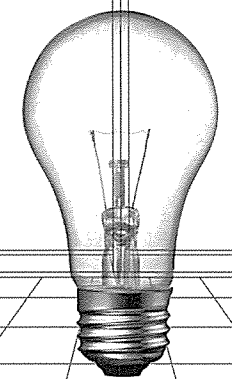
■「自動ドア」は、冷暖房の無駄を抑えます。

自動ドアの電気代を心配する方もいらっしゃいますが、電気を使うのは平均6秒程度で、ほんの一瞬です。節電の為、自動ドアの電源を切って扉を開けたままにすることは、冷暖房の無駄になり、かえって大きなエネルギーを消費することになりかねません。自動ドアは閉じ忘れがないので、冷暖房の無駄を抑制し、建物の快適性を向上させる効果があります。自動ドアは電気の節約で、省エネルギーに貢献しています。

自動ドア1台当たりの消費電力は、蛍光灯20W1灯の消費電力とほぼ同じです。

JADA 全国自動ドア協会
Japan Automatic Door Association

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目9番18号
ホームページ URL: <http://jada-info.jp>



三協立山

中期経営計画（最終年度2018年5月）目標値、売上高3850億円（国内3200億円・海外650億円）、営業利益130億円、自己資本比率35%以上の設定



山下社長

三協立山(山下清胤社長)は、「新VISION2020」の目標値を改定すると共に、中期経営計画(2015年6月～2018年5月)を発表した。

「新VISION2020」の目標値は、2015年5月期の売上高2923億9100万円(前期比1.0%減)、営業利益85億4100万円(43.6%減)の実績を踏まえて、売上高4000億円以上、営業利益160億円に改定した。戦略指標として、①改装・リフォーム事業の強化(建材売上比率30%以上)、②マテリアル事業・商業施設事業など非建材事業の強化(グループ連結売上比率40%以上)、③海外展開(グループ連結売上比率20%以上)を設定。

また、中期経営計画の最終年度2018年5月期は、売上高3850億円(国内3200億円・海外650億円)、営業利益130億円(営業利益率3.4%)、自己資本比率35%以上を目標に、国内市場縮小に対応する効率的な体制構築と収益の確保、VISION2020の目標達成に必要な施策立案と実施、海外事業展開に向けた基盤整備とシナジーの創出を基本方針に掲げる。セグメント別の売上高／営業利益は、建材2330億円／54億円、マテリアル530億円／37億円、商業施設380億円／19億円、国際事業610億円／21億円の計画。

2016年通期業績は、売上高3550億円、営業利益70億円、経常利益60億円、当期純利益25億円の予想。セグメント別の売上高／営業利益は、建材2190億円／17億円、マテリアル490億円／34億円、商業施設350億円／17億円、国際520億円／3億円の計画。

また、新代表取締役副社長に三協アルミ社社長の蒲原彰三取締役副社長の昇任、新任取締役に平能正三三協アルミ社事業役員、黒崎聡総務人事統括室長の新体制を決めた(就任予定8月27日)。なお、藤木正和代表取締役会長は特別顧問に就任予定。さらに、コーポレート・ガバナンス体制を充実させて企業価値の向上をめざして、5月1日施行の「会社法の一部を改正する法律」によって新たに創

設された監査等委員会設置会社への移行する方針を決めた。これにともなう監査等委員である新任取締役は、三村伸昭常勤監査役、野崎博見常勤監査役、佐野孝司顧問、角木完太郎監査役、荒木二郎監査役の5氏。

三協アルミ

高水密カーテンウォール「NL-RNAV」に換気スリット、バランス式逆流防止窓「スウィンドウ」追加

三協立山株式会社・三協アルミ社(蒲原彰三社長)は、高水密カーテンウォール「NL-R」に、新たに自然換気バリエーションを追加した「NL-R NAV」を発売した。



換気スリットは、定風量機構を採用した強風時でも室内に入る風量を一定に保つ「よこ型定風量換気スリット」と、「よこ型換気スリット」の2タイプを用意。耐風圧性2400Pa・気密性A-4・水密1000Pa。また、バランス式逆流防止窓「スウィンドウ」は、温度差や風の力を利用し自然換気する仕組み。水密性500Pa／遮音性T-1。

全国ショールームで「夏休み!! オリジナルエコバック作り」開催

三協アルミ社は、全国6箇所のショールームで8月31日まで、「夏休み!!オリジナルエコバック作り」を開催中。保護者同伴の3歳～小学生が、無地の布製トートバックにマジックで絵を描いたり、スタンプを捺したりして、オリジナルエコバックづくりを体験できるもの。

YKK AP

大好評のハンドル一体型電気錠「スマートコントロールキー」に新デザイン「洋風カーブハンドル」を追加

YKK AP(堀秀充社長)は、住宅用玄関ドアのハンドル一体型電気錠「スマートコントロールキー」に、新デザインの「洋風カーブハンドル」を追加、7月6日から発売を開始した。

「洋風カーブハンドル」は、これまでの「ストレートハンドル」につづくもので、手づくりの鋳物の風合いを追求した表面仕上げで、依然と



して根強い人気の洋風外観の住宅、洋風玄関ドアにマッチする意匠が特長。

2012年4月に投入された「スマートコントロールキー」は、昨年度新築住宅の約50%に採用されたほか、今年4月発売の玄関リフォーム商品「ドアリモ」でも発売2ヶ月で採用率が約40%に達するなど、住宅用玄関ドアの機能として一般化してきている。新デザインのロートアイアン調ハンドル一体型電気錠を投入することで、「スマートコントロールキー」の更なる拡大を見込んでいる。

「APW330」のたてすべり出し窓・すべり出し窓に要望のおおい「オペレーターハンドル仕様」を追加

YKK APは、「APW330」のたてすべり出し窓・すべり出し窓に、「オペレーターハンドル仕様」を追加し6月30日発売を開始した。樹脂窓としては国内初(輸入窓を除く)の設定で、今年の第9回キッズデザイン賞を受賞している。

「オペレーターハンドル仕様」は、安全な操作性、網戸を閉めたまま開閉できる高い防虫性が特長。既存シリーズのたてすべり出し窓・すべり出し窓の販売量のうち、オペレーターハンドル仕様は3割を占めている。こうした要望に応じて従来のグレモンハンドル仕様に加え、樹脂窓化をいちだんと進めていく考えだ。

新本社ビル「YKK80ビル」竣工災害に強く、様々な省エネ工夫を採り入れた最先端オフィスビル

YKKとYKK APの新本社ビル「YKK80ビル」(東京都千代田区神田和泉町1番地)がこのほど竣工し、8月中旬から移転各部門の業務を開始する。

「YKK80ビル」は、もっとも優れた耐震構造(免震構造)を採用したほか、インフラ途絶時には非常用発電機による電源供給で、72時間ビル機能を維持することができる。また、在館者3日分の給排水槽の確保や雑排水の供給、飲料水の備蓄を行なう。停電時には執務室等は自然換気窓により必要な外気量を供給する。

さらに、一般的なオフィスビルに比べ約60%のエネルギー削減をめざす省エネ・省資源の先進システムが導入されている。全館に人感センサー制御のLED照明、節水型衛生器具を採用。また、建物外装には西日を遮るスクリーンと庇、眺望性を確保しながら日射をカットするクライマー式ブラインド内

蔵ダブルスキンウィンドウ(新しい顔をつくる機能的なファサードデザイン)が採用された。さらに、放射パネル+デシカント空調+微気流による快適な執務環境、屋上の芋緑化による室外機運転効率の向上など、様々な省エネ技術を具体化した最先端のオフィスビル。

LIXIL

住宅・サービス事業のプラットフォーム・LIXIL住生活ソリューション設置、専門分野の悩みをひとつの窓口で紹介する「ホームサポーター」提供



松村社長

LIXILグループは、住宅・サービス事業領域における中間事業持株会社として、LIXIL住生活ソリューション(松村はるみ社長)を6月26日付で設置した。

同社傘下の事業会社は、LIXIL住宅研究所(住宅FC事業)、クラシス(住宅販売事業)、LIXILリアルティ(不動産事業・FC事業)、ジャパンホームシールド(地盤調査・建物検査事業)の4社。

住宅瑕疵担保責任法人の日本住宅保証検査機構(JIO)、禁輸サービス事業のLIXILホームファイナンス、LIXILの社内カンパニーで高齢者施設を運営するシニアライフカンパニーと連携して、グループの住宅・サービス事業のプラットフォームとしてワンストップサービスの実現をめざしている。

ストック住宅に対応する新サービスである新・住宅診断サービス「インスペクションNext」の提供を、ジャパンホームシールドと連携し7月1日から開始した。これは建物劣化、住宅設備、住宅性能のそれぞれの状況を報告書にまとめるとともに、検査結果を元に修繕が必要な箇所、取り替えたほうが良い設備などと、その工事金額の目安を合わせて提案するサービス。

また、WEBサイトを活用したコミュニティサイト「HOMEPAD」、相談窓口サイト「ホームサポーター」の住まいと暮らしのサービスを7月1日から開始した。「ホームサポーター」は、住まいの売買や設備の修繕・リフォーム、日々の暮らしの中で生じる収納、ガーデニング、メンテナンスなど多岐にわたる専門分野をひとつの窓口で紹介するサポートサービス。対象エリア：東京・神奈川・千葉・埼玉からスタート。